

<考えましょう, 出し合いましょう>

①あなたの家庭では、エピソードのような場面はありませんか。コラムも読んで、思春期の子どもとの関わり方で困っていることがあれば、出し合ってみましょう。

②子どもが大人になるために、親はどのような関わりをすればよいのか、話し合ってみましょう。



<学習を振り返りましょう>

自分のなかで、わかったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

暑って、話して、自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

「親子で登る自立の坂道」期（子育て後期）
「親が子離れできない」編
（中学・高校生の親を対象としたプログラム） その3

ほどよい距離感って？

～子どもの自立と親の自立～



イラスト：うじな かずひこ

かわいいわが子も大きくなりました。今では背丈も親を追い越しそう…体だけでなく、心の中も大きく変化しているようです。

やたら反抗的な態度かと思うと、急に甘えてきたりして…なんだかとても複雑な様子。親の方も、腹が立ったり、不安になったり、戸惑うこともしばしばです。でも…私もあの頃はそうだったかも。

「あの頃」を思い出しながら、思春期真っ只中の子どもとの関わり方を考えてみましょう。

<思い出しましょう>

●子どもが乳幼児や小学生だったとき、どんな子どもでしたか。また、どんな大人になってほしいと書いてみましたか。思い出して書いてみましょう。

	どんな子どもでしたか。	どんな大人になってほしいと書いてみましたか。
乳幼児期		
小学生のとき		
◆今（思春期）、どんな子どもですか。		

<コラムを読みましょう>

コラム（平成18年度広島県教育モニターアンケートより）

- ◆ 高校入学時に子どもが万引きをしました。子どもの教育を母親まかせにしていたことを後悔しました。素直で信頼していた子であり、悪いことをしたと落ち込んでいるのに追い討ちをかけて叱たり非難せず、私（父親）が子どもの教育を反省し嘆いていることを感じさせようと思いました。そのため、子どもを同伴して店主や学校長に謝る姿をみせました。後になって子どもが、「父に感謝し二度と悲しませまいと思った」と語ってくれました。
- ◆ 年頃の娘には何を言ってもうまくいきません。干渉しないことで自分の精神安定を図っています。
- ◆ 長男・次男ともに中学生の時に非行に走りそうな時期がありました。親の方は常に子どもと向き合っているつもりでも、実際には他に何か大きな問題を抱えてしまうと気持ちが子どもに向いていない時があります。中学生・高校生と体は大きくなっていても、子どもたちはいつも親に自分たちの方を向いてほしいと思います。母さんにとってはあなたが一番大事な宝物だと話しました。



<エピソードを読みましょう>



家ではてんこ盛りのごはんとおかずが…でも全部食べられないこともあります。

- ②母「どうして毎晩食べて帰るの、お母さん一生懸命作ってるのに！ 第一お金ももったいないでしょ！」
 ダイスケ「つきあいよ、つきあい」
 父「友だちつきあいは大事だからな」
 母「あなたは黙って！ ダイちゃん全部食べなさいよ」
 ダイスケ「ウチのごはん、量が多いんだよ！」
 母「全部食べたなら栄養バランスバッチリだからね。野菜もよ！」
 ダイスケ「はいはい、全部食べたらいいでしょ。ふーっ…」



- ① ダイスケくんは高校二年生、野球部のキャプテン。少ない部員ですが、「夏の1勝」めざして、毎晩7時まで練習しています。練習後はおなかが減るので、帰り道みんなでコンビニエンスストアに寄って、肉まんなどを食べながらしゃべって、8時ごろ家に帰ります。



- ③ そこへ彼女から携帯電話が…アルバイトが9時に終わるので、毎晩、バイト先から家まで送りに行っているのです。
 ダイスケ「ちょっと行ってくるね」
 母「もう、なんで他人の子を毎晩送らないといけないの！ ウチの大事なダイちゃんなのに…」
 父「母さんも子離れしないと。気をつけて無事送り届けて来いよ」

- 母「あなたは調子がいいんだから、もう！！」
 ダイスケ「じゃ、行ってくるわ！ 帰って全部食べるから」
 母「勉強もしなさいよ！」
 父「今言わなくても…」
 3人「ふーっ…」

いつもどおり、毎晩の光景です。

